

## 尾台榕堂 医案②

近江屋藤七の婦、年三十余り。経行調わず、絶えて子の育む無し。壬子の春、其の弟は瘵疾を以て歿し、婦人継いで疾を得。身熱、悪寒、夢寐安んぜず、飲食味無く、自ら以て瘵病と為し、心気益々鬱す。余委曲に慰諭して服薬せしむ。尋いで火災に遭い、僦居敗壊し、雨露蔽わず、遂に傷寒を得。第九日に至りて、診を請う。之を診るに、大熱、煩渴、大便通ぜず、腹滿、舌黄、脈洪滑。瘵は本より篤患。之に加うるに是の証を以てす。予、其の治を難しとす。

其の夫、強いて治を乞う。乃ち大承気湯を以て之を下すこと数次。継いで白虎加人参湯を与う。過ぐるごと四、五日、諸証大いに退く。是に於いて柴胡清燥湯を用うることに、二日、又大柴胡湯に転ず。又た柴胡加竜骨牡蠣湯に転ず。通計薬を服すること四十余日、瘵ゆるを得たり。併せて瘵疾も脱然として洗うが如し。月事継いで来たり、明年男子を挙ぐ。真に有ること希れなる天幸と請うべし。